

旧石炭研究資料センター所蔵資料の特徴と概要

三輪, 宗弘
九州大学附属図書館付設記録資料館産業経済資料部門 : 教授

<https://hdl.handle.net/2324/14229>

出版情報 : 貴重文物講習会. 19, 2009-04-24. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :

九州大学附属図書館付設記録資料館・産業経済資料部門では、旧石炭研究資料センターから受継いだ資料群を、産業や地域学の学術研究を行うために研究しています。新たな資料も蒐集し、目録を作成しています。九州大学記録資料館が所蔵する資料については『九州石炭礦業史資料目録』（秀村選三編 西日本文化協会、全12巻）に掲載されています。これを見ると大まかな概要がつかめます。

代表的な資料を紹介します。膨大な量の**麻生家文書**は、近世後期（豪農）から戦後の閉山までの100年以上の期間の資料であり、筑豊御三家の麻生家の企業活動を分析はもちろんのこと、筑豊の地域史や石炭産業の発達史を考察する必須の文献です。特に帳簿類（明治30年から昭和17年まで）は圧巻です。書簡も充実しています。100坪の部屋に保管され、今も未整理の書簡・戦後資料の目録作成をすすめています。量が膨大なだけに今後どのように整理を進め、研究に結び付けていくか考えなければなりません。

次に**宮崎太郎文書**（福岡県会議員、民社党）を紹介しましょう。九州各地の炭鉱（高島、日鉄嘉穂、三菱端島、三井三池、明治佐賀、伊王島鉱業、麻生鉱業、日炭高松など）の石炭関連資料が廃棄されようとしていたのを、宮崎氏が個人の足と熱意で収集・保管し、それを九州大学が引継いだものです。主に労働組合の議事録など貴重な資料が散逸の危機に瀕していたのを収集し、残した宮崎氏の功績は多大なものがあります。宮崎太郎氏が収集したものの中に、日炭高松炭鉱関係写真資料があります。日炭高松労働組合が所蔵していた、写真とネガからなる貴重な映像記録です。写真の公開の難しい点。絵葉書と何が違うのか。

三井三池労働組合関係資料に関しては、これまで九州大学が収集してきた資料（三池争議資料、20年史編纂資料、三池労組本部関係資料、三川支部資料）に加えて、三井三池労働組合解散に際して、同労働組合より100箱（裁判関係、三池争議、労組議事録）ほどの資料の寄贈を受け、現在目録を作成中です。

労謙洞資料（三菱美唄） 超一級資料ですが、公開はしていません。

ハリソン文庫（英国の石炭産業）

写真・絵ハガキ

*******労働組合機関紙と社報（社内誌）*******

三井三池労働組合の**機関紙「みいけ」**は、刊行時には「**組合だより**」という名称でしたが、改題して「みいけ」となりました。**マイクロフィルム**（三池労働組合・西日本印刷寄贈）および**CD**（パソコンで閲覧可能です）に収められているのは159号（昭和25年8月11日）から1389号（平成6年3月22日）までです。昭和25年から29年までの間の「み

いけ」は欠落があり、揃っていません。プランゲ文庫の中に 1 号から 118 号までが幸いにも残っており、国立国会図書館にマイクロフィルムで閲覧可能です。

国会図書館で閲覧可能なのは以下のとおりです。

「組合だより」1 号 (1946.10.30) ～ 74 号 (1948.10.23)

「みいけ」 75 号 (1948.10.30) ～118 号 (1949.10.3)

戦後の労働組合をリードした三井三池労働組合の研究の基本資料となるでしょう。

「日炭高松新聞」も最近見つかりました。しかし完全には揃っていません。共同石炭の場合、最近資料の寄贈を受けましたが、労働組合機関紙や会社の社内報は見つかりませんでした。プランゲ文庫に労働組合や社内誌が集められ、昭和 21 年から 24 年までが保管されたのは幸いであったと思います。25 年以降のない機関紙や社内報を捜し回り、蒐集に力を入れたい。→→許可を取り、ネットで公開していきたい。

資料の蒐集

政治に使われる可能性 (悪意に満ちた使い方) →資料の寄贈を躊躇する。

非売品の回想録、書簡、手帳、機関紙

資料を保管するスペースの確保

資料の整理→目録の作成 (人員の確保と資金・予算 麻生文書のような膨大な量の場合、数グループでチームを組む必要がある。)

九州大学の場合、秀村選三名誉教授を中心とするグループの地道な努力の結果、資料の散逸を防ぎ、相当な量の資料を集めるのに成功した。九州大学は旧帝大の中でも一次資料を持っている。→→情報を発信し、学問的な研究へ。視野の広い若手研究者の養成。

アーキュビスト養成 (資料のための学問と学問のための資料のジレンマをどのように乗り越えるのか)

司書だ、アーキュビストだという垣根。僕は、これは意味がないと考える。実際には受け入れ条件や業務が多忙で手が回らないのが実情である。予算がカットされていく中で、難しい問題。